

## 國歌に就て

文科四年 吉田、志田  
文科三年 上竹、山口

國歌即ちナショナルヒム (National hymn) と謂ふものは、今日では世界各国とも之を有つて居て、其の國々の國際日に用ゐ、又は各國間の交際の道具に使つて居る。故に今日では單に一國限りのものでなくて、對外的のもの即ち國際的の意味を具へて居る。つまり私のものでなくて公の性質を帯びて來たのである。

さて此の國歌の成立に就て調べて見ると、是を歌ふ目的によつて二つに分ける事が出來ると思ふ。一は皇室を讚美するを目的とした讚帝歌とも謂ふべきもので、一は戦時に於て士氣を鼓舞するを目的とした軍歌とも謂ふべきものである。わが「君が代」を始め英國のゴッド、セーブ、ゼ、キング (God save the king) 獨逸のハイル、チール、イム、ジューゲルクランツ (Heil Dir im Siegerkranz) 奧地利のゴツド、エルハルテ、フランツ、デンカイゼル (Gott

Erbhalte Franz den Kaiser 及び露西亞のボーゼ、シアリア、クラニ (Boje Tsaria Khraui) の如きは前者に屬し、佛蘭西のラ、マルセイエーズ (La Marseillaise) や、獨逸のチー、ヴァハト、アム、ライン (Dir wacht am Rhein) 及び亞米利加のヘルコロンバ (Hail Columbia) ゼ、スター、スパンゲルド、バンナー (The Star Spangled Banner) の如きは後者に屬するものである。

斯様な相違は皆其の國家の成立や組織の相違から來るのであつて、其の國歌夫自身を愛する精神に至つては皆同一である。今「君が代」を初め英吉利、獨逸、佛蘭西、亞米利加合衆國、奧地利、露西亞、伊太利の諸國に就て其の國歌の成立の由來を少し調べて見やうと思ふ。誰も知る如く國歌に對しては相當の敬意を拂はねばならぬ。然し此處では學術的研究を發表するのであるから、便宜上一切の敬意を略する事とする。其れを豫め御承知願ひたい。

### 君が代

日本の國歌即ち「君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」といふ歌は、既に千

ものがある。

きみが代は、千代に八千代に、さざれ石の、いはほとなりて、けのむすまで、やれ、こおさふ、こげのむすまで、こげのむすまで。之は興福寺の僧徒が延年の舞の時に歌つたものである。それから又謡曲の老松の中に「是は老木の神松の千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」といふ句があるが之も無論「君が代」の歌を取つたものである。又此歌が明治以前に於て廣く民間に行はれて、君が代を壽ぐ一種の國民の聲となつて居りはせぬかと思はれる材料は、徳川時代の伴信友の著「古詠考」といふ本に、

若狭の風俗に春の始また節供なごいふ日に盲女のものもらひにありくが門に立て「君が代は千世に八千世にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」の歌をうたふが大かた彼の御詠歌のふじさ異られど、をりからのほぎ歌なれば、うたふ聲もきくこゝろもあはれににぎはし。

とある。若狭の様な邊鄙の土地を物貫ひの盲女が此の歌を歌つて歩くといふので見ても餘程廣く弘まつて且國民化して居つたものでなからうかと推測される。此の外新らしい處では薩摩琵琶の蓬萊山の中にも此の「君が代」が出て居る。

年以前にあつたものであつて、明治の御代に及んで之を復活して更めて曲を附けて國歌と定められたのである。西洋の國歌は多く曲が前からあつて、それに歌詞を附けたものであるが「君が代」はそれと反對に曲が新らしく歌詞が古いものである。之は實に天壤と共に窮りなき我皇運の長久を稱へたものであつて、之を唱ふ時誰しも崇高壯嚴の感に打たれざるを得ない。其の本歌とするものは古今集卷七賀の歌の部の一番初めに、題しらす讀人しらすとして載せてある「わが君は千世に八千世にさざれ石の巖となりて苔のむすまで」といふ歌である。此の「わが君」を「君が代」と改めた即ち今の「君が代」の歌の出で居るのは和漢朗詠集であつて其の下の巻祝の部に、「君が代はちよにや千代にさざれ石のいはほとなりて苔のむすまで」とある。尤も此の歌の歌ひ方は一説によつて「君が代はちよにや」と切つて歌つたものである。「千代に八千代」と讀むのではないといふ事であるが是非の程は斷言出來ない。それから此の「君が代」の歌を祝ひの爲に歌つたものとして今日に記録に残つて居るのは南都興福寺延年唱歌の中に、次のやうな

さて、此の「君が代」の歌が明治の御代に至つて國歌となるやうになつた由來はどうかといふに詳しい事は分らぬが此の歌を選んだのは故大山元帥である。と云ふ事である。それは明治三四年頃に初めて我國に軍樂隊を設けやうといふ事で、練習生を募つて横濱在留の英國軍樂隊に就て練習させる事になつた。處が其の樂長は西洋には各國共其の國歌がある。日本でも之を作るがよい。歌があれば曲は自分が作つてやるといふ事を練習生に話したので、其の男は當時砲兵の隊長をして居られた故大山元帥に此の事を話した。元帥もそれは至極尤だ、併し新たに作るよりも古歌から選び出す可きである。我國の國歌としては宜しく寶祚の隆昌天壤無窮を祈り奉る歌がよい。それには自分が日頃愛誦する「君が代の歌がよい」と云つて之を選んで在横濱の英國樂長に送つたといふ事である。

「之に關しては二つの異説がある。第一は島津公の側用人を務め後に御親兵の歩兵隊長となつた肝付半平(後に兼廣と改む)氏が前述の事情の下に自分が愛誦する薩摩琵琶の目出度い蓬萊山の曲にある「君が代」を取つて之を提出したといふ説で、第二は西律藏といふ人が選んだのであると云ふ。此の人も薩摩の藩士で初めて横

不能盡。而發於嗟嘆之餘者。必有自然之音響節。換而不能已焉。此詩之所以作。云々。史ヲ閱スルニ支那ハ上古ヨリ詩賦音樂ヲ尊崇シ、君主政ヲ施サン、其郷黨閭巷ノ俚歌ヲ聽キ、以テ民情ノ向背奈何ヲ觀察シ、樞機順序ヲ慮定セリ。周ノ盛ナル時、朝野其言粹然トシテ正ニ出デザルナク、聖人固トニ已ニ其詩歌ヲ以テ、之ヲ聲律ニ協ヘ、之ヲ郷人ニ用ヒ、之ヲ邦國ニ用ヒテ、大イニ天下ヲ化スルニ至リ、孔子ハ古詩ヲ刪編シテ、以テ之ヲ萬世ニ傳ヘ、樂ヲ以テ六勢ノ一二置ケリ、又歐洲ニ於テハ、夙ニ希臘及羅馬等音樂演戲等ノ進歩ニ心ヲ用ヒ、近今猶亦歐米諸國、技藝、建築、彫刻、圖書、音樂詩歌等ノ体裁ヲ美麗ニシ速カニ人心ヲ感激セシムルニ足ルヲ以テ、之ヲ敬重シ其進歩ヲ圖ルニ至レリ。瑞士國イカ、アルンチエリ氏曰ク、音樂ノ世上ニ利害アルハ、之ヲ學問ニ比スレバ更ニ少シト雖モ、其功用ノ輒リ人情ヲ感動セシムルハ遙カニ學問ニ優ル云々。聞ク、國家ハ先ツ自己ノ形貌ヲ佳麗ニシ、儼然タル國威ヲ輝カシ、其尊貴顯榮ヲ表スルヲ以テ、實ニ緊要ノ事トナスニ依リ、歐米諸洲ハ殊ニ各君主ヲ祝スルノ詩歌樂譜アリテ、現ニ今英國人民ノ女皇陛下ヲ祝スル歌ノ如キ、試ニ之ヲ國語ニ譯スル時ハ、「上帝ガ我仁惠ナル長命ノ貴キ女王陛下ヲ守護シ、陛下ノ勝利幸福及ビ名聲ヲ交付シテ、長ク我等ヲ統轄スル主權ヲ賜フ。神現ハレテ敵軍ヲ擯散ス、而シテ彼等ヲ死シム。國事ヲ攪亂スル邪曲ノ狡計ヲ打毀ス」ト云フ意ナリ。然リ而シテ聘問往來等ノ盛儀大典アルトキハ、各國互ニ其樂譜ヲ誦奏シ、以テ其特立目立國タル隆榮ヲ表認シ、其君主ノ威嚴ヲ發揮スルノ禮款ニ於テ缺クベカラザルノ典トナセリ、依之觀之凡ソ音樂ナルモノハ吹奏ノ音律ヲシテ正シク詠誦スル聲響ニ協合セ

濱の英國軍樂隊に就いて軍樂を習つた人で、この人が肝付兼廣から國歌制定の必要を聞き、それには歌が必要だといふので「君が代」の歌を選んで差出したといふ説である。」

さうして此歌を英國の樂長のフエントンに歌の意味を話して、作曲を依頼した處がフエントンは言葉が解らなかつたから二分音譜を三十二字の字數だけ並べて、其の音に歌の意味を表す様に作曲したから、餘程奇妙なものが出來た。之が明治二年秋の事である。此の歌は今でも國歌といふものゝ、實はその初めは薩摩で作つた天皇禮式の歌であつた。そして翌年越中島で御親兵があつた時、同藩の樂隊は之を吹奏して天聽に達し、又明治九年の天長節の折にも之を吹奏したといふ事である。

所が明治九年になつて、時の海軍の軍樂長であつた是も薩藩の長倉祐庸(後に中村と改姓)が此フエントンの作曲に係るものが悪いからといふので、「天皇陛下を祝する樂譜改定の儀上申」といふ建白書を海軍省に提出した。それは次の様なものである。

#### 天皇陛下ヲ祝スル樂譜改訂之儀上申

守國元晦日。人生而靜。天之性也。感於物而動。性之欲也。夫既有欲矣。則不能無思。既有思矣。則不能無言。既有言矣。則言之所

シメザレバ蓋シ其言辭音節ノ主意ヲ失シ徒ラニ鐘々然タルノミニシテ其人心ヲシテ感動セシムルノ功能ヲ顯ハス能ハザルナリ。然ルニ現今我 天皇陛下ヲ祝スルノ樂譜聖世ハ其記スル所ノ音律我國民ノ詠誦スル聲節ト全ク不妥迭違ニシテ、其之ヲ吹奏スルモ聽者ヲシテ何ノ音樂タルヲ辨知スル能ハザラシメ、爲メニ種々儼然タル我天皇陛下ノ尊榮威嚴ヲ表シ、及ビ之ヲ崇敬スル儀禮ノ主意ヲ失シ前陳徒ラニ鐘々然タルノミ。抑此ノ聖世ノ語ハ嘗テ鹿兒島藩ニ於テ樂隊創置ノ際、教師英人ヘントン氏ヲシテ撰造セシメシ所ニ係リ、當時全氏歸國ノ期至リ殆ンド僅々餘日ナキニ臨ミ、校正ヲ加フルノ暇ナク、爾後亦之ヲ改訂スルノ舉ナク、默許襲用今日ニ至レルナリ。因テ希クハ今更ラニ改訂ヲ加ヘ宜シク音節ヲ正シ、以テ前述設樂ノ本旨ニ適合セシメン事ヲ、別紙改訂見込書ヲ奉ル、臣等樂俗ノ職ニアリ、日夜憂慮已ム能ハズ、極メテ替論ノ罪ヲ甘ンジ、敢テ庸陋ノ見ヲ願ミズ、謹ンテ芹悃ヲ上ル、伏テ惟レハ其足ラザル所ヲ哀レミ其愚ヲ矜ンデ、而シテ採納焉、惶懼再拜。

#### 改訂見込書

第一條 現時我國人ノ詠誦スル聲響ハ每地方其音節ヲ異ニスルヲ以テ、何レヲ以テ正トスベキヤナ斷定スル極メテ難シ、因テ宮中ニ於テ詠誦セラルル音節ニ協合セシムルヲ以テ、改訂ノ正稿トナスベシ。

第二條 改訂係二名ヲ選舉シ、宮内省へ御照會ノ上、右二名ノ者ヲシテ同會へ出頭セシメ、以テ宮中ノ詠誦正音ヲ傳習熟達セシムベシ。

第三條 改訂係宮中詠誦正音ニ熟達スルノ後教師フエントン氏へ命  
囑セラレ、改訂係ノ詠誦音節ニ協合スベキノ樂譜ヲ作ラシメ、而  
シテ反復校合シ後樂手ヲシテ演習セシムベシ。  
第四條 樂譜改正成就ノ上ハ、其譜ヲ印刷シ、式部寮伶官陸軍樂  
部及ビ海外各國へ之ヲ贈送シ以テ改訂ノ旨ヲ報シ併テ將來我  
天皇陛下ヲ崇慶スルノ儀典ニハ必ラズ此聖世ノ樂譜ヲ誦歌セシメ  
ン事ヲ欲スルノ意ヲ報道スベシ。

要するに、今まで行はれて來た天皇奉祝の歌は外國  
の調であるが、日本の天皇を日本人が奉祝するのは  
日本調で而も誰でも歌へるものでなくてはならぬ。  
但し卑俗のものでは、天皇の尊嚴を失する虞があ  
る。之が爲には典は雅樂調がよからうから作曲は雅  
樂所に依頼するがよいといふ意味を述べてある。海  
軍省では、此の議を容れたが西南の役其の他の故障  
の爲に、早速此の事が運ばなかつたが、十三年七月  
に委員を設けて、海軍省備獨逸人エツケルト、前の  
中村祐庸、陸軍々樂長四元義豊、宮内省伶人長、林  
廣守の四人が委員に擧げられ「君が代」の作曲を雅樂  
課に依頼した。此の時「君が代」の歌を本として曲を  
作つたが、之は天皇禮式に用ゐるもので、同時に  
「海ゆかば」の歌の作曲も依頼して、之は將官禮式用

ら藝術上の立場からの批判は別として恰も此の國歌  
は「日の丸」の國旗と同じ様に簡單であるが、其點が  
却て外國に類似が無く、如何にもハツキリとして人  
の注意を惹き易く印象を深からしめる。歌詞も曲も  
簡單であるが我國獨特であるといふ點に於て、世界  
に向つて誇るに足ると思ふ。況んや其の歌詞は實に  
日本の國体の最も適切なる表象であつて、憲法さへ  
も平和の間に出來上つた程君臣上下が一致和睦して  
居るから、其歌詞にも西洋のもの、様に殺伐な點は  
少しもなく又我國体に於ては、天皇は現つ御神であ  
らせられて、それ以上に神を認めないから西洋の國  
歌のやうに神の加護を仰ぐといふやうな文句もなく  
流石二千年來國民の帝室を思ふ自然の聲として傳は  
つた丈あつて、日本の國体、日本の國民性を三十二  
字の上に其の儘表して居る。萬國に冠たる國体の表  
識であつて、我國の國歌としては最も適當なものだ  
らう。

以上に述べた通り「君が代」は寔に結構な國歌であ  
るが、今や世界の一等國に列して、益々勃興的の此  
の國運に適合すべき國歌が何故生れて來ないかと思

として併せて選定したものである。そして「君が代」  
の曲は、林廣守、「海ゆかば」のには東儀秀芳の作が  
當選したと云ふ事である。(林廣守は林廣爲七代の  
孫であつて性來音律に精しく、父祖の業を繼いで笙  
琵琶並に舞に兼通してゐた。殊に笙は其の堪能なる  
ところであつて近代斯道の大家である。今代の笙師  
は皆其の門下から出て其の樂風一世に遍く亘つて居  
るといふ事である。)そこで海軍省では、フランツ  
エツケルトに吹奏樂の和聲をつけさせ、十月に二三  
箇所修正して、確定し十一月の天長節には之を宮中  
で演奏した。斯様な成立であるから「君が代」は初め  
は海軍の天皇奉祝の歌として作つたもので、陸軍で  
も之をいつの間にか採用したのである。處が海軍省  
では、明治二十一年に此の「君が代」に樂譜を添へて  
「大日本會式」と題して條約國へ公然通知した。斯様  
な次第で初めは薩摩藩の天皇奉祝の歌、海陸軍の天  
皇禮式であつたものが、明治二十三年文部省で祝祭  
日唱歌を選定するに及び、此の曲を國歌に定めたの  
で汎く一般に行はれる様になつたのである。  
さて此の「君が代」は歌詞も曲も純日本式であるか

はれる。兎に角莊重典雅の調ふ外に、七千萬の國民  
が一齊に唱ふべき勇壯な進取的な國歌が生れてもよ  
ささうなものである。蓋し生るべくして未だ生れな  
い状態にあるのであらう。抑我が國に此の様な國歌  
の必要がないので自然に生れて來ないのか、又は唱  
ふべき國歌がないのであらうか、思ふに日清戰爭、  
日露戰爭當時には種々の軍歌が流行した。此等は幾  
分國歌的性質を具へて居つた様に思ふ。然し世が平  
和になると共に其等も自然歌はれなくなつてしまつ  
た。實に世界の氣勢は刻々に變化し來り國民的自覺  
を促して止まない今日に於て、我國民をして奮起せ  
しめる様な進取的の國歌が將來に生れんことは最も  
望ましい事である。

#### 英國國歌

英國には、國歌として見るべきものが二つある。  
一は普通英國々歌として世界に有名であるゴッド、  
セーヴ、ゼ、キング (God save the king) であつて一  
は公の場所でない時に一般の人々によつて國歌とし  
て歌はれる、ルール、ブリタニア (Rule Britannia)  
である。先づゴッド、セーヴ、ゼ、キングに就て述

べよう。是は御承知の通り國王讚美の歌であつて非常に壯大な曲である。此の歌の起原に就ては、種々なる異説があつて確定しかねるが、一般に傳はる處によると、イングランドの音楽家ヘンリー・カレーが一人で作曲作歌したと云ふ事である。又一説には此の歌の旋律が獨逸の國歌と同じである處からは獨逸のサクソニア州の民謡であつて、昔サクソニア人が英國に移住した時に英國に這入り此の國の旋律となつたものであると云つて居る。何れが眞か不明である。何にしても此の曲は随分古いもので十六世紀頃よりもつと以前のものであるさうである。又此の曲は廣く歐洲各國又アメリカ迄も廣まつて居て露西亞の故の國歌はこの曲であるし、獨逸の國歌の一種も亦是である、其他バワリア、スイス等の歌にも引用されて居る。

さて此の歌詞は上述の通り國王讚美のものであつて、神に我國王の幸福を祈り、又國家の隆盛を祈つて居る、頗る忠君的のものである。

1 God save our gracious king,  
Long live our noble king,

しめせ。神よ護れ、大王を。

第二節 天なる主よ、我が神起たせよ。敵人をも追ひはらひませ。倒れしめよ。計ごとく破り、卑しきたくみな徒にならめよ。我等は望を神につなぐ。護れ、我等みなを。

第三節 神實、此上なき寶を降さしめよ。大王に。長へに位に在らしめよ。國の法を護らしめよ。真心より湧き出づる聲をもて、歌ふべき故あらしめよ。神よ護れ、大王を。

是は公式の時に歌はれる國歌であるが一般國民は寧ろ是に對しては冷淡であつて、それよりは「ルー、ブリタニア」の方が國民の眞の心に觸れて居る様である。其の證據には、一度び是が演奏される時英國人の凡てが胸を躍らせて感動する。之は即ち歌意が國民精神の根底に觸れて居るからであらう。此の歌は一七四〇年英吉利が西班牙を討つた時にウェルンと云ふ提督の祝賀の宴會の席上で演奏されたのが始めてであるさうである。之は實に尙武的な海軍國の誇を表したものでゴッド、セーヴ、ゼ、キングよりは眞の國歌として喜ばれて居る。此の曲は元此の國に行はれた假面舞踏の歌の曲の末節を取つたものであつて、作曲者は英吉利の作曲家中でも有名な殊にオペラをよく作つたアーメントといふ人である。

God save the king.

Send him victorious,

Happy and glorious,

Long to reign over us,

God save the king.

2 O Lord, our God arise,

Scatter this enemies,

And make them fall.

Confound their politics,

Frustrate their knavish tricks:

On Thee our hopes we fix,

O save us all.

3 Thy choicest gifts in store,

On him be pleased to pour,

Long may he reign!

May he defend our laws,

And ever give us cause;

God save the king.

第一節 神よ護れ、恵み深き我が大王を。尊き大王は千代ませ、神よ護れ、大王を。成功を幸福を光榮をありて、長へに我等を知ら

其れに歌詞を附けたのはタムソンといふ人である。

1 When Britain first at Heaven's command.

arose from out the azure main,

Arose, arose, arose, from out the azure main,

This was the charter, the charter of her land,

And guardian angel sang this strain;

Rule, Britannia, rule the waves!

Britons never shall be slaves.

2 The nations not so blest as thee,

Must in their turn to tyrants fall, (bis)

while thou shalt flourish, shalt flourish

greet and free,

The dread and envy of them all.

Rule, etc.

3 Still more majestic shalt thou rise,

More dreadful from each foreign stroke; (bis)

As the loud blast, that tears the skies,

Serves but to root thy native oak,

Rule, etc.

4 Three haughty tyrants ne'er shall tame

All their attempts to bend thee down, (bis)  
Will but arouse thy generous flame  
To work their woe, and thy renown.

Rule, etc.  
5 The muses' still with freedom found,  
shall to thy happy coast repair; (bis)  
Blest Isle! with matchless beauty crown'd  
And manly hearts to guard the fair.  
Rule, etc.

第一節 ブリタニアが天命を享けて、青海原を出てしき、國の憲法はかくありき。守護の天使の歌ひし調はかくなりき。「支配せよ、ブリタニアよ。ブリタニアよ、汝を支配せよ。ブリタニア人は夢々奴隸たることなかるべし。」(反覆)  
第二節 汝の如き幸福を有せざる他國民は、更る更る暴君の支配を恐れ且妬まんまでに、「支配せよ、ブリタニアよ。……………」  
第三節 汝は愈々威嚴あり愈々恐るべきものならん、外敵の侵襲を受くる毎に。天空を裂く暴風が、汝の郷土に生ずる樅の木を根を愈々吹き固むるが如く。「支配せよ、ブリタニアよ。……………」  
第四節 暴慢なる君は決して汝を治むることなからん。汝を屈從せしめんとの計は汝の憤を炎上せしめ、彼等の禍を醸し、汝の名譽を擧げしむるにすぎざらん。「支配せよ、ブリタニアよ。……………」

### 米國國歌

アメリカ合衆國は、近世になつて初めて歐羅巴人から發見され、其後英吉利や佛蘭西等の殖民地であつたが、今から百五十年程前に獨立した國である。此の土地には古くから、アメリカ印度人と稱せられる土人が居を占めて居た。此の土人の民謠及び舞踊は、原始的で未開なものではあるが、可成面白いものがある。そこでこれを以て、此國の特有な民樂としやうと努力して居る人達が多いが、土人の音樂其の儘では、餘りに未開なので、之を幾分か藝術化したなら將來のアメリカ民樂と謂ふものが出来るであらう。前述の如く此の國の獨立したのは近頃の事であるから、新音樂が起るといふのに未だその時期に達して居ない。それ故今迄には極く淺薄卑近な低級音樂しか行はれて居ない。獨立戰爭當時には愛國の軍歌が盛に歌はれた。而も其の頃の愛國歌には甚だ有名なものが多い。今日のアメリカ國歌は、即ち此の愛國的精神によつて作られたものである。然し此の國歌にも二通あつて、眞面目な場合と愉快な場合と其の歌ふ歌曲が別々になつて居る。前の場合の

第五節 自由と友なる文藝の神は幸ある汝の海岸に集ひ來ん。幸福ある島よ。美しき比もあらず。其處には猛き益荒男、美しき手翳女を護る。「支配せよ、ブリタニアよ。……………」

此の歌の意味は、英國をブリタニアといふ女神に喩へてこの女神の天下を治める威徳の崇高偉大なる處を歌つたものであつて、英國其のもの、讚美である。そして海國として海上の覇權を掌握し國民の自由を尊び、幸福を計り、獨立を完うして益々國威を發揚せよといふ大なる愛國心を流露したものである。實にこの『支配せよブリタニア』は英國國民の國民性を示し其の企業欲、實際主義が窺はれるのみでなくその大きな野心や、豪慢な處も表はれてゐると思ふ。此の歌は一七四〇年八月一日に、ジョージ一世の即位紀念として、作者のジェームズ、タムソン氏が發表したのが最初である。前にも述べた通り此のルール、ブリタニアは海軍の歌として國民精神の眞諦に觸れて居るのでゴッド、セージ、ゼ、キングよりは遙かに勢よく、喜んで歌はれるさうである。英吉利が海軍國として世界に雄飛して居るのも、又異れむに足りない。

ものには、ヘール、コロンビア (Hail columbia) や、ゼ、スター、スバンダルド、バンナー (The Star-Spangled Banner) の二つがあり、後のものとして、ヤンキー、ジードル (Yankee Doodle) といふのがある。ヘール、コロンビアは米國の獨立自由を保護する爲に、國民が兄弟の様に一致團結する必要を歌つたものである。そして其の曲は當時紐育市の音樂劇場の樂長であつた獨逸のフェルプスといふ人の作に係り、一七八九年にワシントンが、大統領の就職式を擧げんが爲に紐育市に入つた時に奏したのでそれ以來、ワシントン將軍マーチと呼んで居つたが、後大統領マーチと變つた。そして其の歌詞は其後十年を経て、一七九八年にジョゼーフ、ホブキンソンといふ人が附けたものである。

1 Hail, Columbia, happy land?  
Hail, ye he roes! heaven born band,  
Who fought and bled in Freedom's cause,  
Who fought and bled in Freedom's cause,  
And when the storm of war was gone,  
Enjoyed the peace your valor won.

Let independence be our boast,  
Ever mindful what it cost,  
Firm united let us be.  
Rallying round our liberty;  
As a band of brothers joined,  
Peace and safety we shall find.

2 Immortal patriots, rise once more;  
Defend your right, defend your shore!  
Let no rude foe, with impious hand, (bis)

Invade the shrine where sacred lies  
Of toil and blood the well-earned prize.  
While offering peace, sincere and just,  
In Herin we place a manly trust,  
That truth and justice will prevail,  
And every scheme of bondage fail.

Chorus: Firm, united, etc.  
3 Sound, sound the trumpet of fame,  
Let Washington's great name,  
Ring through the world with loud applause! (bis)  
Let every clime to freedom dear.

Listen with a joyful ear,  
With equal skill, with steady power,  
He governs in the fearful hour  
Of horrid war; or guides with ease,  
The happier times of honest peace.

Chorus: Firm, united, etc.  
4 Behold the Chief who now commands,  
Once more to serve his country stands.  
The rock on which the storm will beat! (bis)

But, armed in virtue, firm and true,  
His hopes are fixed on heaven and you.  
When hope mas sinking in dismay,  
When gloom obscured Columbia's day,  
His steady mind, from changes free,  
Resolved on death or liberty!

Chorus: Firm, united, etc.  
第一節 幸あれ、コロンビオ。福の國よ。幸あれ、勇士。天の成せる軍隊。自由の爲に戦ひ、血を濺ぎ軍のちかみ終りて、勇氣より勝ち得たる平和の恵を受けしよ。獨立は吾等の誇たれ。常に其價を忘れず。此賜を喜び、其祭壇を天に達せしめよ。

「固く一致して。自由の周圍に集へ。兄弟の如く相結合して、平和と安全を得ん。」

第二節 ミシシへの愛國者よ、起てやまたも汝の權利を擁護せよ。汝の海岸を護れ。狂暴なる敵の不敵なる手をもて、勞苦と血にて獲たる賜物の聖堂を犯すことなからしめよ。誠實に平和を唱へながらも吾等は天に信賴すらく、「真理と正義に勝利ありて、束縛の計は悉く失敗せん。」「固く一致して……………」

第三節 吹鳴らせ、名譽の喇叭を。ワシントンの大なる名を高く賞賛して世界に響かしめよ。自由を愛する諸國をして歡喜の耳もて聽かしめよ。有力に且巧妙に恐ろしき戦争の時をも治め、いとたやすげに幸福多き平和の時にも其國を導けり。「固く一致して。」

第四節 見よ、今指揮を司れる首領は再び其國の爲に起てるよ。暴風雨にうたる、巖の如く。されど徳を鑑とし、堅固に、忠實に。頼みを天と汝等に置きけり。人々の望の失はれし時、コロンビアの日の暗雲に掩はれし時、動きなき彼の心は變らず、死か自由かの一つを選びしよ。

この歌の出來た動機はどうかと云ふに、丁度此時は英吉利と佛蘭西と戦争中であつて、(佛蘭西の英雄奈翁は英吉利の地中海上の權力を打破せんが爲に一七九八年に三萬五千の兵を率ゐてツーロンを發した)亞米利加は其の何れに味方すべきかについて、フライデルフイアに國會を開いて議論が喧かしかつ

た。ワシントンは局外中立の態度を示したから、殊に佐佛黨等是不平で國論が沸騰して居た。丁度其の時フライデルフイアの裁判官ホブキンソンの竹馬の友である一聲樂家が、戦争に就て醜金する爲に音樂會を催した處が、其の前日になつても棧敷を買ふものがなから何と加して人氣を集めなければならぬ。それには人氣のある大統領マーチに、何か今沸騰して居る人心に投ずる様な愛國的歌を附けたら入りを取るであらうと、土曜の午後ホブキンソンの所に行つて依頼した、ホブキンソンは一夜の中に之を作り日曜の午後渡し、月曜の朝豫告した處が其の晩から大入りを取り開場の期日間満員、客も共に之を繰返す様になり、夜は市民の集團が往來で歌ひ國會議員も之に和する者あり、一般に國民に傳播して遂に國歌となつた。これは黨派の區別も無く、唯米國の獨立を本として、其の必要を説いたが爲に一層成功したのである。ホブキンソンは一七七〇年十一月十二日フライデルフイアに生れ、一八四二年六月十二日死んだ。フイ市の法律家として有名な人であつた。次に「ゼスター、スバングルド、バンナー」は

之は或人の作つた酒宴の曲節であつて古きものであるが、之にフランシス・スコット、キーと云ふ人が一八一四年に今の歌を附けたものである。

1 Rockets' red glare, the bombs bursting in air,  
Gave proof thro' the night that our flag was  
still there;

O! say, does that star-spangled banner.

Yet wave O'er the land of the free and the  
home of the brave?

2 On the shore, dimly seen thro' the mists of the  
deep, where the foe's haughty host in dread  
silence reposes, what is that which the breeze,  
O'er the towering sleep.

As it fitfully blows, half conceals, half discloses?

Now it catches the gleam of the morning's first  
beam,

In full glory reflected, now shines on the stream

'Tis the star-span gled banner, O! long may  
it wave

O'er the land of the free and the home of the

us a nation.

Then conquer me must, when our cause it is just,

And this be our motto, "In god is our Trust;"

And the star-spangled banner in triumph shall

wave

O'er the land of the free and the home of the

brave.

第一節 語れ、曉の初の光にも認め得たりや、夕ぐれの終の光に吾等の誇りと歓迎したるものを。廣き線と光ある星とは、危険なる戦争の直中、胸壁の上に勇ましく翻るを吾等は見たりき。火箭の輝きと空中に破裂する爆彈の光とによりて、夜中吾が旗のなほ翻れるを認め得たりき。語れ、其星の旗はなほ自由の國、勇士の家の上に翻るか。

第二節 海上の霧の間にはのかに認むべき海岸、敵の高ぶれる軍隊の恐しき沈黙に眠れる所。嶮しき高地に微風の吹くにつれて、半は隠れ半は顯るゝは何ぞ。今や曉の初の光に照らされ、光まばゆく水の中に映ぜり。これを星の旗なる。願はくば永く自由の國勇士の家の上に翻れ。

第三節 今何處にかある。戦争の混乱によりて吾等の家も國もなからしめんと誇りて盟ひたるかの軍隊は。彼等の血は汚れたる彼等の足跡の汚を洗ひ去れり。彼の傭兵と奴隷とを奔竄と死とより救ふべき隠家は一もなかりき。星の旗は勝利を得て自由の國、勇士

brave!

3 And where is that band who so vauntingly  
swore

That the havoc of war and the battles' confusion,

A home and a country should leave us no more?

Their blood has wash'd out their foul foot-steps'  
pollution.

No refuse could save the hireling and slave.

From the terror of flight or the gloom of the

grave:

And the star-spangled banner in triumph doth

wave

O'er the land of the free and the home of the  
brave.

4 Oh! thus be it ever, when freemen shall stand  
Between their loved home and the war's;

desolusion?

Bless'd with victory and peace,

May the heaven-rescued land

Praise the power that has made and preserved

の家の上に翻れり。

第四節 長へにかくあれ。自由の民が其の愛する家庭と惨憺たる戦争との間に立てる時。勝利と平和との恵を受けて、天祐多き此國は、吾等の國家を作りし其力、持續せし其力を賞歎すべし。吾等は必らず克たん、吾等が主張の正當ならん限り。吾等の格言はかくんぞ。「信頼は神に在り。」かくて星の旗は勝利を得て、自由の國、勇士の上に翻らん。

是は、同年の九月或米國の港を砲撃した英國艦隊の旗艦に、此のキーが其處に捕虜となつて居る友人の命乞ひに行つた時に、味方の軍隊が守つて居る砲臺を望見し、感慨の餘り此の歌を作つたといふ事である。成程右に述べた通り星の旗が要塞の上に勇ましく翻つて居るのを嘆賞し、又それが自然の國、勇士の家に翻らん事を希ふといふ句が繰返してある。

次に、愉快な時に歌ふ「ヤンキー、ゾードル」は「馬鹿なヤンキー」といふ事で曲は種々の國のものであると云はれて居るが、英國が本であるといふ事は確かである。一七八四年倫敦で開かれて居た(Sanned Arnold)の作 (To two one) といふオペラから取つたものだといふ云はれて居る。歌詞も種々あつたらしいが、英吉利の外科醫ドクトル、シヤックバ

ハ (Dr, Schneckburgh) とする人が一七七五年に、妙な制服をつけた殖民地の軍隊を嘲ける爲に作ったものであるといふ事が、最も一般に行はれて居る説である。

- 1 Father and I went down to camp,  
Along with captain Goodwin,  
And there we saw the men and boys,  
As thick as hasty pudding.  
Yankee Doodle keep it up,  
Yankee Doodle dandy,  
Mind the music and the step,  
And with the girls be handy.
- 2 And there was Captain Washington.  
Upon slapping stallion,  
And giving orders to his men,  
I guess there was a million.  
Yankee Doodle, etc.
- 3 And then the fathers on his hat,  
They looked so tarnal finey,  
I want-ed peckity to get,

- In granny's little chamber.  
Yankee Doodle, etc.
- 8 And there I see a little keg,  
Its head was made of leather,  
They knocked upon't with little sticks.  
To call the folk together.  
Yankee Doodle, etc.
- 9 And there they'd life away like fun'  
And play on corn stalk fiddles,  
And some had ribbons red as blood,  
All bound around their middles.  
Yankee Doodle, etc.
- 10 The troopers too, would gallop up,  
And fire right in our faces;  
It scared me almost half to death.  
To see them run such races.  
Yankee Doodle, etc.
- 11 Uncle Sam came there to change  
Some pancakes and some onions.  
For Jassas Cak's to carry home

To give to my Jemima.

- Yankee Doodle, etc.
- 4 And there they had aswamping gun,  
As big as a log of maple,  
On a deuced little cart—  
A load for father's cattle.  
Yankee Doodle, etc.
- 5 And every time they fired it off  
It took a horn of powder;  
It made a noise like father's gun.  
Only a nation louder.  
Yankee Doodle, etc.
- 6 I ment as near to it myself,  
As Jacob's underpinin,  
And father went as near again  
I thought the deuce was in him.  
Yankee Doodle, etc.
- 7 It scared me so, I ran the streets,  
Nor stopped as I remember,  
Till I got home, and safety locked

- To give his wife and young ones.  
Yankee Doodle, etc.
- 12 But I can't tell you half I see,  
They keep up such a smother;  
So I took my hat off, made a bow  
And scampered home to mother.  
Yankee Doodle, etc.
- 一、お父さんへ僕が陣屋へ行った。グッドウイン將軍を一所に行つた  
其處には澤山の大人や少年が居た、ノースチ、ブツヂャングの様に  
群がして居た。
- 二、ヤンキー、ドoodle、こつかりやれ〜、おめかこのヤンキー、  
ミーデル。音楽に氣をつけて、足並揃へて、娘子達には可憐に。」  
三、其處には大將ウオシントンが居た、立派な牡馬に跨つて。兵隊  
に號令を掛けて居た、其人数は百萬人もあつたらう。
- 四、ヤンキー、ミーデル……………」
- 五、大將の帽子を飾つた馬の羽、何とも言へず美しいので、僕は欲  
せぬが無暗に小さな車に載つかつて居た。お父さんの牛の一荷程  
のよのよ。
- 六、ヤンキー、ミーデル……………」



五、それに火を附けたが、一度に一箇の煙硝が入った。音はお父さんの鐵砲の様だが、唯無暗やたらに大きな音だ。

【ヤンキー、ツードル……………】  
六、僕は側へ近く行つて見た、ゼコアの土手の處まで。それからお父さんが又其處へ行つた。僕はお父さんに悪魔が附いたのでは無いかと心配した。

【ヤンキー、ツードル……………】  
七、僕は餘り吃驚して駈出して、今思へば町々を走り續けて、家へかけ込んで祖母さんのお部屋へはいつて鎖を下した。

【ヤンキー、ツードル……………】  
八、其處に一つの樽があつた。其頭は革で張つてあつて、それをみんなが小さな棒で叩く。さうして人を呼集める。

【ヤンキー、ツードル……………】  
九、それから又面白さうにみんなが騒ぐ。唐黍子の幹の胡弓を鳴らす。血のやうな赤い紐を、胴の周圍に付けて居る人もあつた。

【ヤンキー、ツードル……………】  
十、馬に騎つた人が駈足で飛んで出て、我等のすぐ前で鐵砲を撃つ。僕は膽を潰して半分は死んだ。こんな競走は始めて見たか

ら。  
【ヤンキー、ツードル……………】  
十一、其處へサム叔父さんが来た、パンケーキと葱を持つて来て砂糖蜜のお菓子と換へて行くのだ。叔母さんや小供等にやううと思つて。  
【ヤンキー、ツードル……………】

ラスブルヒの市長の宅で會食が開かれた。その當夜居合せた賓客等は、此の宣戰の布告の通知に大いに激昂した。そしてこれを動機に一つの詩を作りたいと云ふ事であつたが、その席の一人であつたルーシエー、ド、リール (Rouget de Lisle) という人が宴會が果てゝ家に歸り、其晩一夜苦心して作曲作歌したのがこの有名な、ラ、マルセイエーズである。(リールは當時工兵隊長か何かの武官であつたが同時に詩人として又音樂者として名高い人であつて、大分種々の著書などもある人である。)

1 Allons, enfans de la patrie,  
Le jour de gloire est arrive!  
Contre nous de la tyrannie  
L'étendard sanglant est levé!  
L'étendard sanglant est levé!  
Entendez vous dans les Campagnes  
Mugir ces féroces soldats?  
Ils viennent jusque dans nos bras  
Égorger nos fils, nos Compagnes!  
Aux armes, citoyens!

十二、僕は見て来た半分も話す事が出来ない。何しろやつさもつきの大混雑だ。僕は帽子を脱いでお辭儀をして、大急ぎでお母さんの所へ選つた。

【ヤンキー、ツードル……………】  
英吉利が是でアメリカを嘲弄して歌つた事もある。この時アメリカ人は只我慢して笑つて聞いて居た。其後英米の戰爭に於て、英國が敗れて其の一士官が米軍に降つた時、米軍が其の士官の前で此の歌を歌つた時は眞に心持よく笑つたといふ事である。

#### 佛國國歌

佛蘭西の國歌は、かの有名なラ、マルセイエーズ (La Marseillaise) である。是は皆さんもよく御承知の通り、眞に元氣の溢れた、心持ちのすき／＼する様な曲である。勇壯な力強さを有つて居る曲である。殺氣を帯びた此の歌詞が如何にもよく曲と調和して、革命の氣分の充ち／＼た歌である。それはその筈、抑此の歌の生み出された處に大きい原因がある。時は一七九二年の初夏の頃、其の時佛蘭西の革命軍の政府が、埃太利に宣戰を布告した。其の事が佛蘭西の田舎迄も傳つた時、當時佛領であつたスト

Formez vos bataillons!  
Marchons! Marchons!  
Qu'un sang impur abreuve nos sillons!  
2 Que vent cette horde d'esclaves,  
De traîtres, de rois conjurés?  
Pour qui ces ignobles entraves,  
Ces fers des longtemp's préparés?  
Ces fers des congetemps préparés?  
Français! pour nous, ah! quel outrage!  
Quels transports il doit exciter?  
O'est nous qu'on ose mériter  
De rendre à l'antique esclavage!  
Aux armes, citoyens! etc.  
3 Quoi! As cohortes étrangères  
Feraient la loi dans nos foyers!  
Quoi! ces phalanges mercenaires  
Terrasseraient nos fers guerriers?  
Terrasseraient nos fers guerriers?  
Grand Dieu! Par des mains enchaînées  
Nos fronts sous le joug se ploieraient!

De vils despotes deviendraient  
Les maîtres de nos destinées !

Aux armes, citoyens ! etc.

4 Tremblez, tyrans ! et vous, perfides,

L'opprobre de tous les partis !

Tremblez ! vos projets parricides

Vont enfin recevoir leur prix !

Vont enfin recevoir leur prix !

Tout est soldat pour vous combattre :

Stils tombent, nos jeunes héros,

La France en produit de nouveaux,

Contre vous tout prêt à se battre !

Aux armes, citoyens ! etc.

5 Français, en guerriers magnanimes.

Portez ou retenez vos coups !

Épargnez ces tristes victimes,

A regret s'armant contre nous,

A regret s'armant contre nous,

Mais ces despotes sanguinaires,

Mais ces complices de Bouille,

Tous ces tigres qui, sans pitié,  
Déchirent le sein de leur mère.

Aux armes, citoyens ! etc.

6 Amour sacré de la patrie,

Conduis, soutiens nos bras vengeurs !

Liberté ! Liberté chérie,

Combats avec tes défenseurs !

Combats avec tes défenseurs !

Sous nos drapeaux que la Victoire.

Accoure à tes mâles accents !

Que tes ennemis expirants

Voient ton triomphe et notre gloire !

Aux armes, citoyens ! etc.

Couplet des Enfants.

Nous entrerons dans la carrière

Quand nos aînés n'y seront plus ;

Et la trace de leurs vertus,

Et la trace de leurs vertus.

Bien moins jaloux de leur survivre

Que de partager leur cercueil,  
Nous aurons le sublime orgueil,  
De les venger ou de les suivre.

Aux armes, citoyens ! etc.

第一節 行けや、祖國の子、光榮の日ぞ來れる。我等に對して暴虐

の血染の旗は擧げられたり。血染の旗は擧げられたり。聞かす

や、横暴なる兵士は郊野に叫び寄りて吾等が抱ける子等を屠り、

妻女を屠らんぞす。「武裝せよ國民。陣立を作れ。進め、進め、不

潔なる血は吾等が田園を染めんぞす。」(第一節に限り再度反覆)

第二節 奴隸、賣國奴、同盟王の群、彼等は何を求むるぞ。かの不

名譽なる枷は誰に用ひんぞか。早くより作られたるかの鐵の枷は

早くより作られたるかの鐵の枷は、フランス人よ、吾等が爲よ、

嗚呼何等の狼籍ぞ。如何に憤慨の念を起さしむるぞ。吾等をこそ

舊時の奴隸状態に置かんとは敢てすなれ。「武裝せよ國民。……

……。」(各節とも同文)

第三節 何ぞ。彼外國軍は吾等が郷土に法律を布かんとするか。何

ぞ。彼傭兵は、勇猛なる吾等の戰士を仆さんとするか。勇猛なる

吾等の戰士を仆さんとするか。大なる神よ。吾等は鎖もて手を繋

がれ、頭は軛の下に屈せんぞす。卑劣なる暴君は吾等の運命を支

配せんぞすなり。「武裝せよ國民。……。」

第四節 戦ひ懼げ、暴虐背信の徒、各黨派の名打たる者どもよ、戦

ひ懼げ。汝等の親殺の計は遂に其報を受くべきぞ。遂に其報を受

くべきぞ。汝等と戦はんがためには國人は悉く兵士となるなり。

若き勇士も悉く仆るれば、汝等と戦はんとする彼等をばフラン

スは新に出すべきぞ。「武裝せよ國民。……。」

第五節 フランス人よ、寛容なる戰士として、汝等の打撃を與へ又

これを緩めよ。憐むべき汝等の敵をゆるせ。心ならずも武裝して

汝等に當るものを。心ならずも武裝して汝等に當るものを。さば

れ血に渴ける暴君、ブーイエの徒黨、母の胸を裂いて憐むべきな

き虎狼の輩。「武裝せよ。……。」

第六節 神聖なる愛國心よ。吾等を導き、吾等の腕を支へて、恨み

を報いしめよ。自由よ。親愛なる自由よ。汝の守護者と共に戦

へ。汝の守護者と共に戦へ。吾等が國旗の下に勝利は汝の雄々し

き聲に應じて來り、汝の敵は死に臨んで汝の勝利と吾等の光榮と

を見ん。「武裝せよ。……。」

兒童唱歌 長者みな死して世にあらすば、戦陣に臨みて吾等は其の

塵を尋ねべし。其の遺せる義烈の跡を見出すべし。其の遺せる義

烈の跡を見出すべし。吾等は生きながらうへんよりも、彼等と棺

を分たんことを望むなり。吾等は無上の誇りせん。彼等の恨みを

報ゆるにあらすは彼等の後を逐ふをもて。「武裝せよ國民。……。」

さて此の出來たものを翌朝早速市長へ持つて行つ

て、其處に集つて居た人々に之を演奏して聞かせた

處が、大變皆の氣に入つて了つた。それからリール

は之を將軍の、リュックネルに献じ、將軍は之を其

の部下に「ライオン軍隊の歌」として配布して歌はせ

た。非常にいゝ歌だといふので忽ちフランス中廣まつた。そして八月十日巴里のチュイルリーの攻撃の際にマルセイユの軍隊が一生懸命歌つた。それ以來巴里の人達はマルセイユの軍隊が歌つたからと云ふので、マルセイユと云ふ様になつて了つた。元はマルセイユの歌と云ふ意味である。殊に軍隊の間に之がもてはやされた事は非常なもので、フランス軍の向ふ所に何時も此歌は元氣に響いた。フランスの士氣が之によつて勵まされた事は云ふ迄もない事である、歌詞は以上の如く革命の氣分の充ち／＼たものであつて、毎節の終りに「國民は武装して立て、不潔な血でもつて我國土を染めさせるな」といふ事を繰返して居る。之を歌ふフランス軍がどれ位血を躍らした事だらう。又「敵に負けると奴隷になるぞ、敵は虎狼と同じなんだから、どんな暴虐でもやる。我等は死して後やむ勢で之に當れ」と云ふ様な事を繰返して居る。

此の歌は最初六節で終りだつたが後、ルイ、ジュポアといふ詩人が更に一節を書き加へた。それは今兒童唱歌と云つて最後に歌ふ。その意は「先輩が死

の様子はどうなにも勇壯な事であらう。リールは國葬になつたと云ふ。それは多くの人が既に知つて居る事だらうけれど一寸附加して置く。ミシユレ氏は曰つて居る。「近きより遠きに繰返さるゝ此の歌は、全土を席捲せり。諸國民の聲に永久不滅の歌を加ふるは稀觀の神業ならずや」と。

當今の戦争に於て此のマルセイユズはどんなにフランス將士の士氣を鼓舞し或は慰藉したか知れない。數多の將士は皆これを唱して突進し、勇士は何れも之を唱へつゝ彈丸に斃れて行く。此の歌はこの様に大きい力を與へて居る。今回フランス共和國の國家的儀式として、この大きなマルセイユズの作者リールの遺骨が巴里南郊から巴里のアレヅハリド(大ナポレオンの墓地)に移された。其れは一昨年七月の十三日の事で巴里市會の提議によつてである。非常に盛大な壯嚴な國葬の禮を以てリールがアレヅハリドに葬られた翌日大統領ボアンカレー氏は斯う云つた。「比ひなき此の國歌は國民の心理に數多の超人的諸徳を喚起せしめたり。(中略)その響く所、マルセイユズは獨立の熱情を有し、而して

んでも泣かない。子供と雖も祖國の爲、先輩の後を逐つて死ぬ迄戦ふ」と云ふのである。此の最後の一節で此の歌全体の調子が、一層慷慨悲壯の調子を強めて居る。併し此の歌は何分成り立ちが頗る殺伐な原因に由るので革命の氣分が充分表れて居る。英國の女權運動をする人達が、勝手な歌詞をこのマルセイユズの曲にくつゝけて、元氣よく歌ひ乍ら町を練つて歩くといふ事であるが、流石マルセイユズだけあつてとんだ處に應用されたものである。こんな歌なのでフランスの王政時代には、叛亂を惹起する虞のある歌曲だといふので、危険視され禁じられた事さへあつたと云ふが、一八七八年第一回フランス萬國博覽會の時初めて政府の公認を経て、フランスの國歌となつた。そして世の中から最も注意を拂はれて居る。此の歌はもう大分年を取つた。百二十五年にもなるのだが老いて益々盛なりといふ有様だと云ふ。ロシアの國歌の悲惨な運命と比べて見る時、何だか大きい事を訓へられる様な氣がする。歐洲戦争が始まつてから此の歌が一層よく歌はれるさうである。必死の人達が此の歌を力一杯歌つて居る戦線

其の凡ての子等が、隸屬するは寧ろ死するに若かずとなす。一主權國民の意氣を示すラ、マルセイユズが壯大なる意義を有するは、豈吾等フランス人の爲のみならんや。其の活潑なる語句は、一世界語を成すもの、今日全世界に依りて解せらる」と。實にラ、マルセイユズは熱烈なる愛國の至情の精華帽々たる憂憤の結晶であつて、其の調の激越なる其はの詞の崇高なる、誠に不朽の傑作である、此の國歌はフランス國民の大きい寶であり、リールはフランスの大なる誇である。此の歌の一節をとつて種々な歌曲が作られて居る。其の中で特に有名なのは、シウマンの作の二人の抛彈兵と云ふのである。

#### 露西亞國歌

Boje Tsaria Khrani.

Boje tsaria khrani!

Silnyi dierjawni

Trastwoni na slawou, na slawou nam.

Trastwoui na strakh wragan.

Tsar krawoslawnyi

Boje tsario khrani!

神よ護れ皇帝を 強き權威ある者よ  
我等の光輝の爲に 名譽の爲に支配せよ  
敵を恐れしむる如く支配せよ

正敬信奉の皇帝を 神よ護れ皇帝を

ゆつくりした幅の廣い、歌つて壯嚴な歌である。多くの國歌の中でも落ち着いた快さで異彩を放つて居る。

これは、曲も歌も一八八三年ニコラス一世の命令によつて初めて書かれたのである。曲は、アレキシス、テオドル、ルウオツフによつて作られた。彼はニコラス一世の武官であつて、作曲者としてもオペラ數篇を作つたし、宗教樂上でもすいぶん名のある人である。歌詞は、ジューコフスキーといふ人。それらの人の經歷を述べることによしておく。

何しろ之を初めて公然と演奏するといふ時は、ニコラス一世親しくこの場にのぞまれてこの歌をお聴きになつて御讚めの言葉を下さつた。處が、この時は、歌ひ手が小人數であつた爲壯嚴の趣が發揮されず、多少批難するものもあつた。それで、帝が一度、今度は歌ひ手を二千人として演奏おさせになつたら、大變それがよくつて皆の人の氣に入り、それ

る。十八世紀の終りに奥國が佛國の軍隊の爲に國土を蹂躪された事がある、其の時に、佛軍が士氣を鼓舞する爲にマルセイエーズを歌ひながら進軍した、これを見た奥地利人は、軍歌の軍隊に必要なものである事を痛切に感じて、奥國に未だ愛國的の歌がないので、よく奥國民の愛國的の感情を表したマルセイエーズのやうな勇ましい國歌が欲しいと思つた。丁度その時、奥國の大音樂家ハイドンが、英國を訪問してロンドンに行きある席上で英國々歌「ゴツドセイブザキング」の合奏を聞いてその莊重な偉大なしかも平和的なリズムに大さううたれて、我奥國々歌もこのやうな嚴かなものになつて欲しいと思つた。それで、維也納に歸つて、彼の友人である男爵スウインにこの事を話した所が大變に讃同せられて、當時の大臣サーロバ伯(國歌制定の主張者)と相談してハイドンの説を容れ、彼に國歌の製作を命ずる事になつて現にあるものがつくられた。それでその始めのマルセイエーズのやうな勇ましい物をといふ希望とは全く反對の「ゴツドセイブザキング」のやうな莊重な平和的の歌が出来た。この歌は、さすがハイドン

からは國民の誇りとして之を國歌としてうたふやうになつた。是は、即ち、日本の國歌と同じように讚帝歌で、革命的な物でない、全く帝王の幸福をいのる歌なのである。穩かな日、非常な人數が聲を揃へて歌ふ時、初めてこの歌の眞價は發揮される。

今日のやうにめちやめちやな有様になつてしまつたこのロシアで。この歌は果してどんな運命になつてゐるのだらう。その歌の響きはたしかに大きいぞつしりしたロシアらしさを表すものだつたけれど今はその歌を歌つて居る人が何人あるのだらう。この曲は一人や二人で歌つても味がわからない。兎に角實に立派な曲である。この曲が生れて僅か三十年で葬られるのかと思ふと惜くつてならない。

#### 奥地利國歌

奥地利の國歌も亦、日本やロシア等の國歌と同じやうに讚帝歌で、フランツ皇帝の時(一七八七年頃)命じて制定せられた物である。

この國歌を作るやうになつた動機は次のやうであ

の手に成つたものであるから英國々歌以上のもの出来上つたのである。

歌詞はレオポルドハツシユカが作つた物で、この人は當時王室の御歌所の役人で詩人であつた。

これは讚帝歌であるが爲、始めから終りまで皇帝の幸福皇帝の御徳をたゞへて居る。即ち、よき皇帝の在位の永久なる事を願ひて、「彼が爲に常磐木なる冠をつくれり」とうたひ「御柱は仁愛と正直なれ、御楯のしるしは正義の光ぞかゞやく。」と言つて皇帝の御徳をたゞへ其の他皇帝の民の爲に恵みを垂れさせられ給ふことを書き、或は我國の繁盛をはかり皇帝の萬歳をとなへる意をあらはして居る。

即ち、(1)には皇帝の御在位の長からむことを願ひ、(2)には王の徳をたゞへ、(3)には王のよき國民の福をはかり給ふこと、(4)には王の萬歳、及び國家隆盛を期すといふ意味のものである。

その歌詞は次のやうなものである。

Gott erhalte Franz den Kaiser.

Gott erhalte Franz den Kaiser,  
Unsern guethn kaiser Franz!

Hoch als Herrscher, hoch als maier,  
Steht er in des Ruhmes Glanz!  
Liebe windet Lorbeerreiser Ihm zumewig grü-  
nen Kranz!

Gott erhalte Franz den kaiser,  
Unsern guten kaiser Franz

2. Neber blühende Gefilde  
Reicht sein Scepter weit und breit;  
Säulen seines Throns sind milde,  
Biedersinn und Redlichkeit

Und bon seinem Wappenschilde  
Strahlet die Gerechtigkeit.

Gott erhalte, etc.

3. Sich mit Tugenden zu schmücken;  
Achtet er der Sorgen wert.

Nicht um Pölder zu erdrücken,  
Flammt in seiner Hand das Schwert;

Sie zu segnen, zu beglücken,  
Ist der Pnais, den er begehrt.  
Gott erhalte, etc.

4. Er zerbrach der knechtschaft Bande,  
Hob zur Freiheit uns empor!

Früh erleber deutscher Land,  
Deutscher Pölder höchsten Flor

Und vernehme noch am Ram  
Skaler Gruff der Enkel Chor:

Gott erhalte, etc.

(1) 神よ護れ皇帝フランツを  
我等がよき皇帝フランツを

君主として賢人をして高く立てり  
彼が爲に常盤なる冠をつくれり

神よ護れフランツを我がよき皇帝フランツを  
廣く遠く花咲きたる野に王笏の稜威は及び

(2) 玉座をさぐる御柱は仁愛と正直とたれ  
御推の御紋章には正義の光を輝く

神よ護れフランツを我がよき皇帝フランツを  
徳を以て身をかざらむと貴くも心を用ふ

(3) 臣民を抑壓せんがためならず  
其手にかゝやく劔の光は臣民をめぐみ

福あらしめむとぞ唯民の望む報酬なれ  
神よ護れフランツを我がよき皇帝フランツを

(4)

奴隸の繩をさきて  
吾等を自由の身と浮ばしむるは彼ぞ  
早くより獨逸の民族の繁榮を見せなはし

萬歳のみぎりは我が子孫の合唱をきこし召せ  
神よ護れフランツを我がよき皇帝フランツを

實に塊國々歌は、歌といひ、歌詞といひ、世界の國  
歌中最も藝術的で、國歌として完全に近いものと稱  
せられてゐる。

これの始めて演奏されたのは、フランツ皇帝の誕  
生日一七九七年二月十二日に朝廷の劇場であるとい  
ふ。

またそれに關しては、一つの哀れといはうか、む  
しろ悲壯なはなしがある。一八〇九年五月二十一日  
作曲家ハイトンは、すでに八十餘才の老年で病床に  
あつたが、ナポレオンの攻撃軍がすゝんでその家の  
周圍にまでどん／＼と彈丸が來るので大變におどろ  
き、最後の大努力を振り起してピアノにむかひ自作  
の國歌を演じつゝ死んだと傳へられてゐる。

伊太利國歌

伊太利は、地理上からいつても、南の方に位して  
風暖かに空は青くはれやかな日の光を漲らせてを

(4)

り、橄欖の葉は緑にオレンヂの實る、如何にも詩的  
な國である。歴史の上からいつても、その前身であ  
る羅馬は、歐羅巴で希臘に次ぐ古い國で、幾多のロ  
マンチックな物語りは傳へられて居る、幾多の美術  
は、かうした地勢と、氣候と、傳説とに育て上げら  
れた國の人の手に依つて盛になつた。音樂もその一  
つである。獨特の美しい優しい旋律を持つた歌が多  
く傳つて居る。殊に唱歌の本場とも云はれてゐる國  
であるが、國歌としては、「ローヤルマーチ」がある  
ばかり、何故國歌がマーチばかりなのかといふと。

丁度十九世紀の半ごろ伊太利は最後の壓迫者であ  
つた塊地利と佛蘭西との手をのがれやうともがき、  
一八六一年には獨立し、一八七一年に至つては全く  
國內を統一する事が出來たまで、戦亂の絶えなかつ  
た時代、他國の侵略に逢ふ毎に反抗の聲をひゞかせ  
たラツパに國民の心を吸かせる爲にガレオツタイー  
といふ者があつて當時流行の俗歌の一節をつなぎ合  
せて作つたものがこれであるからなので、出所がさ  
ういふ所にあるにも係らず、他國の國歌に比して大  
した遜色のない程な古雅な性質を持つて居るのは、

流石に伊太利だけある。しかしどうしても尊厳といふような所を缺いて居るのは致し方のない事であるが、つまり愛國的のマーチでとにかく今伊太利を支配してゐる王室に對する敬意を表はしては居る。尙軍歌的の性質を帯びた愛國歌として一般に知られてゐる物に「マネリのうた」と、「ガクバルデーの讃歌」がある。

前者は一八四八年、長年の壓迫に堪へかねて國民統一の希望に燃えたミラノの人々が、對奥の反軍を起し大いに勝ち、殆ど自立した其の時、使を當時伊太利の聯邦中で最も勢のあつたサルヂャニヤ王カローアルベルトに遣はし、早くロンバルヂャに我らを指揮すべく來れど、云ひ送つた。この報を得るやサルヂャニヤでは宰相カブールが、逡巡すべき時でないを熱心に主張し、王もそこで兵を進めてロンバルヂャに入つた。

さあ、半島内の對奥の敵愾心は一通りのものはなくなつた。モデナ、バルマ、トスカニヤ、ローマ等も兵を出した。青年達はゼノアの詩人ゴツフレツドマネツの作つた「ア、同胞よ汝が目覺めし伊太

の時、メルカンチンといふものがあつて、ガリバルヂの讃歌を奏した。「墓は發かれ死者はたてり、我殉難の士は皆前にあり劍を手にし桂冠を被り滿腔伊太利の名の爲に燃ゆ。」と、これが今も残つてをり歌はれて居るのである。そして、さうく一八五九年戦端は開かれた。

かういふ時に作られたものであるから、今でも伊太利の中部及シ、ラー等ことに彼に對する感謝の念の深い所では、ロイヤルマーチの後に附けて此の歌を奏する事があるといふ事である。

伊太利のはこの位にしておいて、次にはオースタリーとドイツの國歌についていはうと思ふ。この二國は今敵對國であるけれど、敵國だからと云つてかういふやうな場合仲間はずれにする必要もなからうと思ふ。

### 獨乙國歌

獨乙には、帝王の徳をたゞへる讚帝歌と、國民の希望國民のほこりを歌つたいくつかの軍歌的の性質をおびた愛國歌とがある。

讚帝歌の方は、

利は額にローマの兜をきなし。」を、歌ひ南から北から雲の如く霞の如く集つてロンバルヂャに向つた。その歌こそ「マネリの歌」でこの國開闢以來三千年空前の偉觀であつたとつたへられて居る。

後者はその同じ頃伊太利の統一の事について、非常な勳功者であるガリバルデーの、英雄的事業に依つて伊太利が、今日の統一と繁榮を得た事を思はせるもので、サルヂャニヤの宰相カブールが國內統一の爲に、オーストリアの反抗するについて、佛蘭西のナポレオン三世に助を求めやうとつとめて居た一八五八年一月、その心を知らないオルシンといふものが、三世こそ我が統一を妨げるものだ、と暗殺しようとし返つて處刑されることとなつたが、その死に臨んで始めて故國の宰相の心底及人民の輿論を知り、三世に向ひその罪をゆるし、故國の獨立を助けられんことを請ふた。そこで三世も感じて、遂に南征の意を決した。そしてその度三世の召に應じ、カブールが、フロンビエルといふ所に行き佛蘭西から助けを得る確信を得ると直ぐ愛國的英雄ガリバルデーを徵し、戦備を命じた。決戦の日は來た。こ

### Heil dir im Siegerkranz.

1 Heil dir im Siegerkranz,  
Herrscher des Vaterlands!  
Heil, kaiser, dir!  
Führ' in des Thrones Glanz

Die hohe Wonne ganz:  
Liebling des volks zu sein!

2 Heil, kaiser, der!  
Nicht Ross' und Reissige  
Siehern die stiele Hoh;  
Wo Fürsten stehin!

Liebe des vaterlands,  
Liebe des freien manns  
Gründet des Herrschers Thron  
Wie Fels im meer.

3 Heilige Flamme, glüh',  
Glüh' und erlosche nie  
Fürs vaterland!  
Wir alle stehen dann  
Mutig für einen man,

Kämpfen und bluten gern  
Für Thron und Reich.

4 Handlung und Wissenschaft

Heben mit Mut und Kraft  
Ihr Haupt empor!

Krieger und Helden tat

Finden ihr Lorbeerblatt

Treu aufgehoben dort

An Deines Thron!

5 Sei, Kaiser Wilhelm, hier

Lang Deines Polkes Vier,

Der menschheit Stolz!

Fühlin deis Thrones Glanz

Die hohe Wonne ganz!

Lieblich des Bolks zu sein!

Heil, Kaiser, dir!

「戦は花冠をいたるに幸あれ」

大陣 戦勝の花冠を戴ける汝の幸あれ

祖國の支配者よ。皇帝よ汝に福あれ

王冠のか、やきに高き歡喜を享けよ

臣民の捧ぐる愛慕に

皇帝よ汝に幸あれ

2 馬にあらず。騎士にあらず

險しき高地、君主の立てる所。守り固むるは

祖國の愛、自由なる民の愛

築きなす君主の位

海中にたつ巖の如く

3 神聖なる火炎よ、燃えよ

長へに燃えて消ゆな、祖國の爲に

吾等は一齊に勇み起らん

奮つて戦はん、血は濺がん

4 王位を帝國の爲に

商業と學術とは、勇氣と力をもて

嶄然頭角を露さん

5 武勇と壯烈とはそが月桂の葉の

忠實に保たる、を見ん

6 汝の玉席の傍に

7 皇帝ワイルヘルムよ

永くここに汝の民の飾人類の誇たれよ

王冠のか、やきに高き歡喜を享けよ

臣民の捧ぐる愛慕に

皇帝よ汝に福あれ

と云ふ。右の歌詞はこの國の人シユマツカルの作、

曲はかの「ゴッドゼーブザキング」と同じである、こ

れは歐洲人一般に餘程氣に入られたもので、英國か

の歌である。

○ Was ist des Deutschen Vaterland.

1 Was ist des Deutschen Vaterland?

Ist's Preussenland?

Ist's Schwabenland?

Ist's wo am Rhein bie Rebe blüht?

Ist's, wo am Belt die mowe zécht?

O nein, nein, nein,

Sein Vaterland muszzer sein!

2 Sein Vaterland musz grözzer sein.

3 Was ist des Deutschen Vaterland?

Ist's Baierland? Ist's Steierland?

Ist's, wo der marsen Rind sich streckt?

Ist's, wo der marker Gisen reekt?

O nein, etc.

4 Was ist des Deutschen Vaterland?

Ist's Pommerland? Westfalenland?

Ist's wo der Sand der Dünen webt?

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

ら、先づ丁抹に入り、獨乙の國境を起えるや、その聯邦の十何ヶ國に廣まつた。そして普魯西の國歌を起えるや、その聯邦の十何ヶ國に廣まつた。そして普魯西の國歌ともなつた。時に丁度佛蘭西に大革命が起つて間がなかつたので、世の中が大變さわがしかつた、それで自衛の必要上、國民的自覺が振ひ起り、作られたのがこれであらう。一七九三年の作とつたへられて居る。

これは直接國王を讚美する事「ゴッドゼーブザキング」に似しかもたゞ神に國王の加護を願ふといふ意味ばかりでなく、第三節のやうな、彼には一寸見られない文句がある。

歌は、誰も知つて居る通り如何にもとゞのつた古雅な莊重な調子のものであるが、英國と同じものでしかも向ふが元祖だといふことが、英人と總ての點に敵對の位置に立つやうになつた獨乙人の氣に入る筈がなく、近頃この代りに新しいのが出來たといふ事である。

さて讚帝歌は之れ位にしておいて、愛國歌の方に移らう。愛國歌としては、「祖國はいづこ!」「ライ

Isf's, wo die Donau brausend geht?  
O nein, etc.

4 Was ist des Deutschen Vaterland?

Sonenne mir das grosse Land!

Isf's Land der Schwuzer Isf's Tiroel?

Des Land und Volk gefel mir wohl!

Doeh nein, etc.

5 Was ist Deutschen Vaterland?

So nenne mir das grosse Land!

Gewisz, es ist das Oesterreich,

An Ghren und an Siegen reich?

O nein, etc.

6 Was ist des Deutschen Vaterland?

So nenne mir das grosse Land!

Isf's, was der Fürsten Trug zerklauht?

Vom kaiser und Reich gerauht?

O nein, etc.

7 Was ist des Deutschen Vaterland?

So nenne mir des land!

So nenne mir des land!

So wat die deutsche Vungesing!

「祖國は」

1 何處ぞ獨乙人の祖國は

プロイセンの地かシエツアーメンの地か

ラインの岸に葡萄の實る處か

マルチツクの濱邊鷗の泳ぐあたりか

否、否、祖國は尙それよりも廣かるべし

2 何處ぞ獨乙人の祖國は

バイエルンの地か、スタイエレンの地か

マルスの牛の臥す所か

マルクの鉄の鍛はる所か

否、否、祖國は尙それよりも廣かるべし

3 何處ぞ獨乙人の祖國は

ボンメルンの地か、ヴェストフアレンか

機邊の砂の吹立つあたりか

ドナウの河波響く所か

否、否、祖國は尙それよりも廣かるべし

4 何處ぞ獨乙人の祖國は

その大なる國名は何ぞ

シエツアイツ人の住む所か

5 何處ぞ獨乙人の祖國は

その大なる國名は何ぞ

エステルの國必ずそれならん

Und Gott im Himmel Lieder singt.

Das soll es sein! Das soll es sein!

Des, wahrer Deutschen, nenne Dein! des nenne

Dein!

8 Das ist des Deutschen Vaterland,

Wo Gide schwort der Drud der Hand,

Wo Treale hell bom Ange blitzt

Und Liebe warm im Herzensitz,

Das soll, etc.

9 Desist Deutschen Vaterland

Wo Born bertilgt ben walschen Tand.

Wo jeder Frebbr heizte Feind,

Wo jeber Gdle heizet Freund.

Das soll es sein! Das soll es sein!

Das ganze Deutschland solles sein!

Das soll es sein, das ganze Deutschland solles sein

10 Das ganze Deutschland soll es sein,

O Gott vom Himmel sieh' darein!

Und gib uns ichten deutschen mut,

Dasz wir es lieben treu und gut!

Das soll, etc.

勝利を名譽に富める國

否、否、祖國は尙それよりも廣かるべし

6 何處ぞ獨乙人の祖國は

その大なる國名は何ぞ

王侯惡計の奪合ひにかつては皇帝より

祖國より剣き去りしその地か

否、否、祖國は尙それよりも廣かるべし

7 何處ぞ獨乙人の祖國は

今は告げよ其名を

獨乙語の響きて

天に在す神に御歌捧ぐる極み

それよそれよ、勇敢なる獨乙人よ

それこそ汝が祖國なれ

8 獨乙人の祖國そこには

同盟は手を握りて成り、信義は眼のに輝光き

暖き胸の中の愛を潜む

それよそれよ、勇敢なる獨乙人よ

9 獨乙人の國そこには



天つ神も照し見て  
純正のドイツ魂我等に與へ  
正しく誠に國を愛せしめよ  
それよそれよ、全獨乙國即ちそれよ

これは獨乙で有名な詩人アルントが一八二二年に作つた歌詞だ。丁度一八〇六年一〇月一四日エナといふ所でナポレオン一世の爲に非常に普魯西軍が敗れたので、フレデリック大王以來戦捷になれた國人は全く意氣沮喪し、遂に國王も北に奔り、一八〇七年にはテルチットといふ所での和約に於て非常な屈辱を受けた。獨立國の國民として之をどうして黙過し得やう。はげしい敵愾心を共に、燃えるやうな愛國心は起つた。さまざまの善後策はたてられ、復讐戦の機を手ぐすねひいて待つて居た。そのころ作られた物なので、獨乙國民を統一したいといふ心から書かれ、獨乙といふ物は決して普魯西とかバイエルンとかいふ狭く限られた物ではない、獨乙語の行はれる處即ち獨乙國である。純粹な獨乙魂を持つ人々の住む所即ち獨乙國であるといつてゐる。  
それに一八二五年に至りグスターフライヒェルト

といふ人が曲をつけ、それが當時の人心に非常にかつたので盛に行はれた物であつたが、今は獨乙聯邦の中から同じ獨乙語を話す塊地利人がのき、しかもその他の國々の連結は強固なものとなつたから、今では大して意味がなくなつて居る。

- Die Wacht am Rhein.
- 1 Es braust im Ruf wie Donnerhall,  
Wie Schwertgeklirr und Wogenprall!  
Bum Rhein, zum Rhein, zum deutschen Rhein!  
Wer wird des Stromes Hüter sein!  
Lieb Vater land, magst ruhig sein;  
Lieb Vater land magst ruhig sein;  
Fest steht und ren die Wacht, die Wacht am Rhein!  
Rhein!
  - 2 Durch Hunderttausend zudt es schnell,  
Und aller oger blitzen hell;  
Der Deutsche, Dieder, fromm und start,  
Beschrimt die heilige Landesmart!  
Lieb Vaterland, etc.

- 3 Er blickt hinauf in Himmelsa'n  
Da Heldenväter niederschau'n.  
Und schwört mit stolzer Kampfeslust:  
„Du, Rhein, bleibst deutsch wie meine Brust!“  
Lieb Vaterland, etc.
- 4 So lang ein Tsopfen Blut noch glüht,  
Roch eine Faust den Degen zieht,  
Und noch ein Arm die Büchse spannt,  
Betritt kein Feind hier deinen Strand!  
Lieb Vaterland, etc.
- 5 Der Schwur erschallt, Die Woge rinnt,  
Die Fahnen flattern hoch im Wind;  
Am Rhein, Am Rhein, am deutschen Rhein.  
Wir alle wollen Hüter sein!  
Lieb Vaterland, etc.

- 前 ラインの守りは立てり堅固に且忠實に
- 1 百千の人は速に響に應じ  
諸人の眼は均しく輝きぬ  
獨乙人は正直敬虔勇敢にして神聖なる國境を守る  
「愛する祖國よ………」
  - 2 彼は天空を見上げた  
祖先の英勇は其處より地上を眺め下せるなり  
士氣凜然として彼は誓へり  
「汝ラインは吾が胸を共に常に獨乙のものなり」  
「愛する祖國よ………」
  - 3 一滴の血なほ存じ一拳なほ劍を抜くに足り  
一腕なほ銃を支ふる間は  
敵を以て一歩も汝の岸を踏まじむるを許さず  
「愛する祖國よ………」
  - 4 誓は響き渡りぬ彼は奔りぬ  
旗は高く風に翻れりラインにラインに  
獨乙國のラインに我等みな其守護者たるべし  
「愛する祖國よ………」
- これもやはり同じ頃の詩人マックスシュエネッケンブルケルに依つて作られた。それが一八五四年に至りウイヘルムといふ人に今日行はれる節が附けられた。
- このころは、獨乙の國民の統一を希望する心がい

よく一切であつたが、獨乙がいよくその事を實行するについてはその首領として普魯西を戴くべきか、埃地利を戴くべきかといふ事で、議論百出、ついに普魯西説が勝つたので、埃國は不平で不平でその議に反対な獨乙の他の諸侯を集めて普國に當らうとした。普魯西は恐れて露西亞に頼つた。露西亞といふ國は、元來專制國で革命がきらいなので、その普國の運動にも革命的な所があるといふのを名として、味方とならなかつた。そればかりか、一八五〇年一〇月及十一月の二度に露埃二國から普魯西はオルミユツツの屈辱をうけ、餘議なく埃地利に屈服してしまつた。これから後埃國に對する敵愾心が盛になりしきりに獨乙の連邦から埃國を追ひ出さうと計つた。しかも一方にはかの野心満々たるナポレオン三世が佛帝となつて居て、西の國境も安くはなかつた。この時に當り猛烈な敵愾心をさながらなげ出したような雄々しい歌詞は勢のよい曲と共に愛國心に燃えて居る國民の好尚にびつたりと合つた。特に一八七〇年に普佛戦争が起るや非常に意味深い物となり人々に愛誦された物であつた。

これは曲も文句もつまり當時獨佛の境界であつたライン河畔の守備の任に當つて居る獨乙の兵士を激勵するのが主意で作られたもので、文句にも随分勇壯な所が多い。例へば、「一滴の血尙残り……」といふ第四節の如き最も甚しい物で、各節毎に其終りに「愛する祖國よ……」といふ句を繰り返して其の調子は勇壯激越を極めて居る。しかし、これは平和の時にうたはるべきものではない。佛國に對する國際上の關係から見ても適當であるといふ意味から、常に公式の國歌としては取り扱はれなかつた。その上國境も既にもつと西に進みしかもその國境をさへ越えて戰つてゐる今日では、餘程もとの意味が失れかゝつたが、たゞ佛國に對する敵愾心の象徴としての意味を僅かに維持して居る。これらの歌をかのマルセイエーズに比すると、彼は餘程反抗的消極的であるのに、これは餘程壓迫的積極的な所がある。これも皆その國民性の差異からであらうがこれだけの差異は今どれ程大きい國勢の差異を作つて居る事か。

の勢を保持して居たのは「總てを凌ぐ獨乙國」である。

Deutschland über alles.

1 Deutschland, Deutschland über alles!

Über alles in der welt,

Wenn es stets Zune Schutts und Tratte.

Brüderlich zusammen hält!

Von der Maas bis an die Memmel.

Von der Etsch bis an den Belt.

Deutschland, Deutschland über alles,

über alles in der Welt!

2 Deutsche Frau'n nnd deutsche Treue,

Deutscher Wein und deutscher Sang

Sollen in der Welt behalten

Thren alten, guten klang,

Uns zuedler That begeistern

Unser ganzes Lebelang.

Deutsche Fran'n und deusche Treue,

Deutscher Wein und deutscher Sang!

3 Einigkeit und Recht und Freiheit

Für das deutsche Vaterland,

Darnach laßt uns alle streben

Brüderlich mit Herz und Hand.

Einigkeit und Recht und Treiheit

Sind des Glückes Unterpfand.

Blüh, im Glanz dieses Glückes,

Blüh, deutsches Vater Land,

これは、一八四一年にホッフマン、フオン、アルレルス、レーベンといふ人が作つた歌詞で、曲は、一七九七年、ハイドンに依つて作られた埃國々歌「神よフランツ帝を守れ」といふのをそのまま使つたのである。これは流石天才の手になつただけであつて、前にも述べたように國歌中では世界第一といはれて居る。如何にも氣持ちのよい崇高な感じのする曲である。歌詞は、題の表はして居るように、獨乙が天然、人爲、共に他に比類のない長所を持つて居る事を稱へた物で、如何なる所にあつても獨乙人たる者は皆之を知り唱へて居るといふ事だ。獨人は之を曲も穩かな中に適勁な所があり、歌も對敵的といふよりも衷心から起つた愛國の念の自然の發露で之の起源

は獨乙國民の國民的自覺で大体に聯邦團結の歌である。ことに第二節では「獨乙の婦人酒歌を稱へて、之らがその舊調を維持し、以て獨乙國民をして高邁な事業を遂げしめよ。」と、歌つてゐる。そこに頗る注目すべき所があると、誇つて居る。しかし、それすら今日殆ど全世界を向うに廻しての武者振りに對しては、早、其の絶大の抱負を表現するにふさはぬといふので改めやうといふ議もおこつて居るとか、今後の事は豫測するに術もない。

以上はかなり長い時をいたゞいて私共の研究致しました事の大體でございます。何分、力の足りません者の致しました事でございませぬから、又いろ／＼御教へ戴きたいと存じます。

之を研究致しますに就ては、湯原先生、音楽學校の乙骨先生並びに下田先生、垣内先生の御指導を仰ぎました事は一通りでは御座いませぬ。失禮ながら、紙上に諸先生に厚く御禮申上げます。

### 戦争と教育

文科三年 松尾、金丸、小川

戦争といひ平和といひこれみな人間の我儘なり。造次の平和を樂しみ顛沛の戦を好む。平として一直線上を歩むことあたはざるこれ人間なり。みよ佛國

### 英

### 戦争と英國幼兒

幼兒の死亡を防ぎ、その健康を維持せしめんが爲には母をして兒童を如何に育てあぐべきかを知らしむるより必要なるはなし。内務省は母と子供の幸福のために盡力しつゝあり。生理的に適當なる兒童を教育せんとするは徒らに勞力の空費なる事は言を俟たず。吾人の大なる目的は健全なる状態に於て兒童を入学せしめ、その健康を維持しゆかは、必ず生徒は一層多くの事柄を學び、公費を空費する事も以前に比してはるかに減少するならん。婦人に對し各方面の要求ある中、特に近來は家庭に幼兒を有する婦人に對し、重大なる要求生せり。英國に於ける社會上大なる危険の一は、これら子供等の母親の仕事に従事するため、兒童の保育に對して適當に用意されぬといふ事なり。文部省はこの欠陥を補はむがために、託兒所を設け、且補助金を與ふ。即ち現在七十七ヶ所の託兒所を有し、一九一四年には約五〇磅の下附金をして、母が仕事に従事せる間幼兒を見守る補助金とせり。吾人はこの種の仕事の非常に價

革命を。支那に於ける興亡を。皆これ彼等が自らを波瀾の渦中に導きつかれてはまた元の静かさに歸らんとする努力にあらずや。元より彼等人間は種の欲望と力の慾望とに根ざされてこの世に出たり。彼より吾は強者ならんことを願ひ、美ならん事を願ひ、只慾望の満足を追ひてその生を終ゆ。眞の力、伴はざれば形丈の強をよそひてその心を慰むるなり。かゝれば彼等の魂はたえぬ戦につかれ、肉はたえずきづ／＼けり。五十有餘の長き春秋にも何等の光もみどめ得ず、はた眞の自己の生長も遂ぐるを得ざるなり。エビクロス出で老子出づる者蓋必然の要求と謂ふべき乎。

教育はこれ生存の能力を吾等に授く。實に徳も愛も結局は吾を現世に優ならしむる一具にすぎざるなり。一國の上よりいへば他國より勝さらん能力を授くるものなり今や歐洲戦亂肇りて四年餘彼等が長き間誇りに示しつゝありし教育の力は如何程の活働をなせるや。彼等の如何なる行動の上に輝けるや。聊かこの事に興味をもちて吾等は此の研究をなせり。

### 英

### 戦争と英國少年

値ある者なる事を認むるなり。開戦以來文部大臣は數多の廻文をもつて戦争に對する教育者の態度及教育上の施設につき訓示する所ありしが、ロンドン州會の教育部長サー、ローバートフレア氏、亦其監督の許にある教師に訓示し、彼等が教ふる所の生徒に對し、時局の進展につき、冷靜にして正確なる説明をあたへ勝て傲らず敗れていよいよ剛毅なるべきを教へ、且つ常に之を實行上に應用し、戦争の歴史、地理、その經濟的影響、及道徳的觀念を與へ、又國家的自負と、自由の愛とは國文學の講讀によりて之を涵養すべき旨を通知せり。斯くの如くにして教場にて教へられたる愛國的教訓は實地に應用せられ、少年旅團少年義勇團の行動に現はれ來れるなり。今やこの兩團體のなしつゝある事業は將來軍務に従事する者に對し、非常なる好成绩を示しつゝありて、少年旅團に屬せる者の中、すでに十五萬人は軍務に就ける狀況なり。此等の團體に屬せる少年が嚴重なる訓練によりて與へられたる軍事的動作及愛國的精神は、彼等の行動によりて知ることをうべく、今やこの兩團